

# はじめに

「生まれてきてくれて、ありがとう。」

親のそんな思いに抱かれて誕生した子どもたちです。わが子をまるごと受け止めたあのときのことを忘れないでほしいと思います。そして、常に、わが子の姿を「持ち味は…」という窓から見つめ、それを生涯に渡って大切にしてほしいと思います。「持ち味」は、一人一人が持っているものです。良い悪いと他の人が評価することではありません。例えば、Aさんがおしゃべりなのも、Bさんが口数が少ないことも、それぞれの「持ち味」です。「持ち味」はそれぞれのかげがえのない「たからもの」です。そんな願いで、この「たからもの手帳」を作りました。ぜひ、この手帳を「たからもの」でいっぱいにしてください。

一人一人の「持ち味」は、幼い頃は分かりにくいものです。ただ、成長とともにしだいに表に現れてきます。そして、その「持ち味」が「自分らしさ」となり、さらに自己肯定感の土台となっていきます。「自分らしさ」は、一人一人に無理なく自然体でいられる楽しい時間を与えてくれます。また、壁にぶつかったときには、「これが自分だから」と、壁を乗り越えるためのエネルギーになります。

わが子が「自分らしく」生活できているときは、温かく見守ってほしいと思います。ただ、わが子が自分を見失って悩んでいると感じたとき、あるいは親自身がわが子の「持ち味」をつい忘れそうなとき、そんなときは、ぜひこの「たからもの手帳」を改めて手にとってみてください。きっと、力がわいてきます。

この「たからもの手帳」は、親が記録し、親が大切に保管してください。そして、いずれは、ぜひ、わが子にプレゼントしてはどうでしょうか。「たからもの」が生涯にわたってつながっていきます。

飛騨市長 都竹淳也

